

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和4年10月23日 VOL. 168

第11回“医療・介護・福祉フォーラム2022”を開催しました
ひとりでも 最期まで自分らしく生きる～慣れ親しんだ場所で最期を迎えるには～



講師：上野千鶴子氏

社会学者・東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長
近著「最期まで在宅おひとりさままで機嫌よく」

令和4年10月23日（日）に藤枝市民会館ホールにおいて、第11回“医療・介護・福祉フォーラム2022”（主催：藤枝市・志太医師会（会長：森泰雄氏））を開催しました。今回は、上野千鶴子氏を講師に「ひとりでも 最期まで自分らしく生きる～慣れ親しんだ場所で最期を迎えるには～」と題し、講演会を開催しました。

当日は、334の方が来場し、YouTubeによる聴講が798回と多くの方の参加がありました。上野氏が転倒によるアクシデントに見舞われ、急遽、リモートによる出演となりましたが、参加者は講師の語りかけに引き込まれ熱心に聴講されました。

講演内容の一部を紹介

在宅ひとり死の3つのキーワード

1. 自己決定できること（意思の表明）
2. 司令塔（キーパーソン）がいること（頼れる人をつくろう）
3. システム（多職種連携）がある（医療と介護の連携）

参加者の感想から

「元気で最期を迎えたいと思います。」
「わがままでいい！心強い言葉です。」
「介護保険の改定について初めて聞きました。」
「自身の人生を全うできる地域づくりがしたいです。」
「藤枝市の在宅医療についてもっと知りたいと思いました。」



本市では、志太医師会在宅医療サポートセンター（センター長：山崎健司医師）と協働し、「平穏死を考える集い」などを通して、市民とともに「平穏な最期」や「より良く生きるために」などについて語り、市民と共に学び合う機会を設けていきます。

バックNo.の検索は

